

2011年マイワシ

単位：数量，1,000トン、価格，円/kg

年	生産地		輸 入		輸 出		東京		在 庫	加 工		品 生 産		消費支出 ↑(円)
	ミール	生・冷	生・冷	缶	生	煮干	缶	身入		塩蔵	煮干	塩干		
22	73.4	54.3	321	9.7	1.7	0.083	6.3	2.4	10.5	5.4	1.0	23.0	19.5	834
23	170	131.1	234.4	8.6	12.7	8.838	4.5	2.1	15.6					761
%	232	242	73	89	752	10648	72	86.9	148	0	-	0	0	91
価 格											海域	22	23	対比(%)
年	産 地	輸 入	輸 出	東京		消費支出				道東	0	1	-	
		ミール	生・冷	生・冷	缶	生	煮干	生(円)		三陸	4	4	82	
22	111	134	80	120	587	372	533	643		常磐	37	79	213	
23	48	116	81	57	669	360	532	545		九州	1	5	462	
%	43.2	87	101	48	114	97	100	85		山陰	5	29	644	
											その他	8	13	169
MAX S63年、4488千トン														

漁獲量と資源

23年のマイワシの漁獲量は、まだ絶対量としては少ないながらも17万トン前後と前年の7.3万トンを大幅に上回った。

道東漁場では、久しぶりにマイワシの漁獲がみられ、1,882トンの水揚げをみた。一方、カタチイワシは約3,509トンで前年(20,803トン)を大幅に下回った。北部太平洋海域のマイワシの漁獲は犬吠～房総海域での漁獲が引続き好調で前年を大幅に上回った。また、山陰でも、前年を大きく上回る4倍増の漁獲であった。

太平洋系群のマイワシの資源量は、1981～1988年の間1,400万～1,900万トンと高水準で安定していたが、1989年から急減し、1994年に88万トンとなった。1995～1999年には70万トン強で比較的安定していたが、2000年から再び減少しはじめ、2002年以降2007年まで10万トン台で推移した。しかし2008年から増加に転じ、2009年は27万トン、2010年は45万トンと推定されている。

対馬暖流系群のコホート解析の結果から、資源量は1970年代から増加し、1988年には1,000万トンに達したと推定される。その後減少し、1995年に資源量は100万トンを下回り、2001年には1万トンを下回ったと推定される。2004年以降は増加し、2005年より再び1万トンを超え、2010年の資源量は3.4万トンと推定された。資源水準は低位、動向は増加傾向と判断されている。

産地水揚量と価格

23年の水揚量は、13.1万トンで引続き前年(5.4万トン)を大幅に上回った。したがって価格は、48円で前年(111円)を大きく下回った。

北部太平洋海域での漁は、三陸は停滞気味であり本年も常磐主体で、引続き昨年を大幅に上回った。

なお、本年のミール相場も、年明け後は前年来の20万円/トンから始まり、この高値が周年続いた。

三 陸

23年の三陸での漁況は、初漁期（北上期）の4、5月は漁獲皆無、夏場にかけては昨年をやや下回った。

三陸(単位: 10 00トン)			常磐(単位: 10 00トン)			山陰(単位: 10 00トン)			日本海北(単位:10 00 トン)		
月	22年	23年	22年	23年	22年	23年	22年	23年	22年	23年	
1	0.0	0.0	2.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0			
2	0.0	0.4	0.2	5.6	0.4	0.1	0.0	0.0			
3	0.0	0.1	0.1	9.7	0.8	0.1	0.0	0.0			
4	0.0	0.0	0.8	5.1	0.5	3.1	0.0	0.0			
5	0.0	0.0	0.6	9.7	2.1	13.7	0.0	0.0			
6	0.4	0.0	8.1	20.3	0.1	7.6	0.0	0.0			
7	0.0	0.1	13.1	13.3	0.1	0.1	0.0	0.0			
8	2.5	0.2	7.2	4.0	0.1	0.1	0.0	0.0			
9	0.1	0.0	0.5	2.5	0.1	0.3	0.0	0.0			
10	0.0	0.3	0.5	2.9	0.2	1.6	0.0	0.0			
11	0.8	0.9	4.8	1.2	0.1	2.4	0.0	0.0			
12	0.5	1.5	1.4	5.0	0.0	0.2	0.0	0.0			
計	4.4	3.6	39.2	79.4	4.5	29.2	0.0	0.0			
MAX	S61年1097千トン		MAX S58年822千トン		MAX H元年7 13千トン		MAX				

秋から冬場の南下期は昨年をやや上回る漁獲とり、来年に期待を持たせた。
魚体は、周年を通じて2010年級群主体に漁獲された。

常 磐

23年の常磐での漁況は、原発による放射能漏れの影響もあって、操業区域の制限があったが、初漁期の越冬群の漁獲、北上期においても前年を更に上回った。また、後半の南下期も前年をかなり上回り、往時にはとどかないものの徐々に増加の兆しがみられた。

魚体は、周年を通じて2010年級群主体に漁獲され、越冬、北上期は小中羽・中羽主体、南下期は中羽主体に漁獲された。

山 陰

23年の山陰での漁況は、今年も上半期に昨年を大きく上回る好調さであった。しかし、その後の夏場以降、秋口にかけては、やや落ちてきたが、上半期の好漁を受けて全漁期を通じて昨年の4倍増となった。

また本年も上半期4、5月に集中的にまとまったカタクチイワシの漁獲があり、水揚げも前年並みであった。

在 庫 量

本年の平均在庫量は、1.6万トンとなり前年(1.1万トン)をかなり上回った。これは、国内生産の大幅な増加が輸入ミール等の減少や輸出の増加を打ち消した結果であるとともにミール市況の高騰の影響もあろう。越年在庫は1.4万トンで前年(1.1万トン)を上回り多かった。

輸 出 入

本年の輸入ミールは、23.4万トンで前年（32.1万トン）をかなり下回った。

輸入ミールは21世紀に入って再度増加傾向を見せてきた。2001、2002年は40万トン台に輸入量も回復しつつあり、2006年も2002年以来の40万トン突破となったが、2007年以降市況の高騰やペルー沖のアンチョビーの不振もあって30万トン台前半の水準で、しかも一昨年は20万トン台に落ち、昨年は再度30万トン台戻ったが、本年は再度20万トン台の低水準となった。

また、平成7年頃から餌料不足により外国（米国、メキシコ、オランダ）からの原魚輸入もみられていたが、現在も、依然この3国が主体である。本年は国内生産が順調に伸びていることもあり生・冷マイワシは（夫々1,882トン、2,983トン、2413トン）と引続きやや減少している。また、その他少ないながらもカナダを始めアジア諸国、EU等からも輸入されている。本年は0.8万トンで前年（1万トン）をやや下回った。

輸出は缶詰と冷凍に分かれるが、缶詰輸出は、サバ缶同様減少の一途を辿っていたが、本年は8,838トンで前年（83トン）を大幅に上回った。

また、冷凍輸出は引続き国内漁獲が増加したことを反映し1.3万トンと前年（0.2万トン）の6倍増となった。

価格は、缶詰が669円で前年（587円）をやや上回り、冷凍は120円で前年（119円）並みであった。

消費地入荷量と価格

本年の東京の入荷量も、4.5千トンで前年（6.3千トン）をかなり下回った。

マイワシは近年の資源量の低水準の中でも産地水揚げの増加もあったものの、犬吠埼周辺での漁獲が多く、放射の問題等で扱いが少なくなったのか入荷は減少した。

価格は、360円で前年（372円）をやや下回ったが、需要が上述のこともあって消費需要が伸びなかったことが考えられる。なお、家計消費でみると今年は数量、購入金額とも減少が目立った。

煮干しは、2.1千トンで前年（2.4千トン）を引続きやや下回った。